

令和6年度第1回尾張旭市いじめ問題専門委員会 議事要旨

1 開催日時

令和6年6月24日（月）

開会 午前10時

閉会 午前11時30分

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎2階 201会議室

3 出席委員

金城学院大学教授

川瀬 正裕

愛知県弁護士会弁護士

長谷川 雄一

瀬戸旭医師会医師

安藤 郁子

尾張旭市社会福祉協議会

星原 淳一

4 欠席委員

臨床心理士

上田 千鶴

5 傍聴者数

0人

6 出席した事務局職員

尾張旭市教育委員会教育長

三浦 明

尾張旭市教育委員会教育部長

山下 昭彦

管理指導主事

伊藤 和由

学校教育課長

山田 祐司

学校教育課指導主事

岩下 徹

7 議題等

(1) 令和5年度「いじめ実態調査」の調査結果、いじめの認知件数について

(2) 「いじめ」認識の差について

8 会議の要旨

指導主事	<p>ただ今から、令和6年度第1回尾張旭市いじめ問題専門委員会を開催いたします。</p> <p>本日の会議は、4人出席であり、尾張旭市いじめ問題対策連絡協議会等条例第10条第2項の定数を満たしておりますので、有効に成立しております。</p> <p>また、本委員会は教育委員会の附属機関であり、附属機関等の基本的取扱いに関する要綱第6条各号の規定により、原則的</p>
------	---

	<p>に会議を公開するとともに、会議録を作成します。</p> <p>傍聴席は、事務局の席の後ろに設けてありまして、現在、傍聴者はおられません。</p> <p>それでは、開会にあたり、尾張旭市教育委員会 教育長より御挨拶させていただきます。</p>
教育長	<あいさつ>
指導主事	続きまして、川瀬委員長に御挨拶いただきたいと思います。
川瀬委員長	<あいさつ>
指導主事	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここからの会の進行につきましては、川瀬委員長にお願いいたします。</p>
川瀬委員長	<p>それでは、以後の進行を次第に従いまして進めていきます。</p> <p>議題「(1) 令和5年度「いじめ実態調査」の調査結果、いじめの認知件数について」、事務局から説明をお願いします。</p>
指導主事	<事務局説明>
川瀬委員長	ただいまの令和5年度の「いじめ実態調査」の調査結果、いじめの認知件数の説明について、御意見をいただきたいと思います。
安藤委員	<p>印象としては昨年のデータと変わらないと思いました。どうやって介入するかというのが一つの大きな問題だと思います。そういうことの調査工夫というのは何か研究をされていますか。どうやったらいじめに気付くアンテナが磨けるのかというのがすごく気になっています。</p>
指導主事	<p>子どもの様子の観察が一番気づく方法です。泣いていたり、明らかに表情が暗くなっていたりすると声を掛けていくのは当然であります。一方で、だんだん年齢が上がると、その後の交友関係も考え、話は聞いてほしいんだけど、介入まではしてほしくないという子も多くなってくるのが事実であります。</p> <p>また、介入した後のいじめはどうなったかという点につきましては、この数字だけではわからないので、今後これをどのように深掘りしていくかということは、課題になってきます。</p>

安藤委員	<p>いじめについては、自らSOSを出すのは小学校ぐらいまでで、中学校になるとちょっとまた状態が変わってくるという感覚はあります。中学生ぐらいの子に話をすると、あの子はいじめられてるかもしれないけどそれは仕方がないとか、あの子にもよくないところがあるとかいう発言を耳にすることがあります。そういう感覚からしても、中学生になると本人の勝手な判断みたいなのがSOSを出さない理由に入ってくると思います。</p> <p>中学生の不登校が全国で20万人程度との報道がありました。その要因として複合的なものがあると思いますが、人間関係が大人っぽくなり、希薄さがみられると感じます。</p>
星原委員	<p>資料1の全体としてまとめのところで確認をしたいなと思います。ネットいじめ関係については、具体的な取り組みとしては何かありますか。</p>
指導主事	<p>中学校に限らず、入学式や夏休み前とか冬休み前にSNSの使い方について保護者に手紙を出したり、児童生徒に集会等でも注意喚起をしたりという手立てをとっております。また、学校の授業の一コマとして、いわゆる携帯会社の方を呼んで、具体的なトラブルの事例を取り上げて、学ぶ機会を設けております。</p>
長谷川委員	<p>いじめられてどうしたかというところで我慢したっていうのが増えていることが、気になります。大人に相談してもしょうがないとか、周りに相談できる大人がいないとかの場合があるかもしれません。我慢したっていうのが多いので対応しなければならないと思います。</p>
指導主事	<p>数値的にはしっかりとしたものはないですが、言ったことによつて余計ひどくなるんじゃないかという恐れを抱き、今は我慢したほうが良いと思ってしまうような声があるのは確かです。</p>
安藤委員	<p>先回の委員会で説明のあったSOSボタンは現在活かされているのですか。</p>
指導主事	<p>SOSを出す手段として、タブレットのSOSボタンはついております。タブレットを見ればそういうボタンがあるのは児童生徒もわかっている状況です。しかし、現状は、その活用は少ない状況です。</p>
長谷川委員	<p>相談を受ける中で、特に多いのがSNS関係です。勝手に写真を上げられて結構ひどいことを言われるような事例がありま</p>

	<p>す。本当は自分が傷ついていくぐらいのものなのに、そうではないと我慢している場合があります。子どもたちが認識できなくても大人が先に気づいてあげられれば、もうちょっと救えるものがあるのではないかと感じます。</p>
川瀬委員長	<p>たぶん子どもたちも保護者の方もそうですけど、例えば、それを言ったらどうなっていくのか。どういうふうに解決していくのかというゴールが見えていないのではないのでしょうか。その先が見えないのにSOSは出しにくいのではないかと思います。</p> <p>次に、議題の2のいじめ認識の差について事務局からご説明をお願いします。</p>
指導主事	<p>＜事務局説明＞</p>
教育長	<p>当日配布させていただいた資料がございます。こちらは全国の教育長会議に行ってきたときに、文科省から説明があったものです。資料では、いじめの認知件数は過去最多を記録し、いじめの重大事態件数も過去最多となったということがわかります。</p> <p>また、いじめ重大事態のうち約4割が事前にいじめとして認知されていなかったということです。これは、先ほど担当が説明した認知の違いにもなってくると思いますので、参考までにご覧ください。</p>
長谷川委員	<p>いじめの認識のズレを考える際に、事実がまずあったかどうかということがベースになります。いつ、どこで、どんな人がどうしたのかというところを詳細に聞いて、事実とその前後の事実も認定していきます。また、その事実を裏付ける証拠が出てきますので、それを見ながらこういう事実があったとさらに認定していきます。当事者はより事態が悪くなるかもっていう不安はあるかもしれませんが、この事実をどれくらい確認するかというのはすごく大事です。</p>
安藤委員	<p>実際にはその前の段階でどのくらい吸い上げるかっていうことが大きな課題だと思います。例えば、学校の先生対象のアンケートをとり、実際にいじめとして対応した数値を明らかにし、子どもがいじめられたという数値と先生が認識しているという数値の乖離があれば、そこはもう一步先生たちに頑張ってもらわなければいけないと思います。まずは、乖離があるということからスタートするということです。</p>

川瀬委員長	<p>学校でいじられてるんだけど、それは我慢して、そのまま放課後にその子たちと一緒にショッピングセンターに行くとそこでも嫌なことをされるというケースを聞いたことがあります。学校では守ってもらえても、校外ではもう耐えられなくなり、もうあの子たちと一緒にいられなくなり、不登校になっていく。</p>
安藤委員	<p>一緒にショッピングセンターまで行き、その先でいじめられるのであれば、なんでその子と一緒にいったの？と聞きたくあります。「今日は用事があるからといって逃げればいいじゃん」とアドバイスして診療するような子たちを支えています。そういうことを教えることは先生が教えるより、周りの大人が教えてもいいと思います。</p>
星原委員	<p>私も同じ意見です。距離をとるシステムを用意してあげる。具体的に何かスキルとして子どもたちに伝えていくことが大事だと思います。いじめを認識したけど、どうしていけばいいのかというのは、何もしないと同じような形になります。</p>
川瀬委員長	<p>尾張旭市のサイズは、情報を共有するにはとてもよいサイズだと思います。県の生徒指導協議会で、昨年に理論編でリーフレットを全部配布しています。スクリーニングシートを使って立ち止まってチェック入れるようなルーティーン化を進めれば、認識をしっかりと持つということにもつながるので、とても大事だと思います。また、周りの大人の側が子どものSOSを吸い上げる事も大切です。</p> <p>以上で、議題としてはこの2つになります。</p>
教育部長	<p><連絡 スクールロイヤーについて></p>
指導主事	<p><連絡 今後の予定について></p>
川瀬委員長	<p>それでは、これをもちまして、令和6年度第1回尾張旭市いじめ問題専門委員会を終了します。ありがとうございました。</p>